四乃井

一

中村俊定文庫
文庫 18
46
1

山之井春部

元日

門祝棚　かさり縄　古物　諸物

きり始　弓始　年男　大みく

雑餅　みき春　門松　ゆづり葉

ちゝ　ゆね　板鬼板　たま

ゆづり

ゆづりは　ゆづるんをまつ

祝ぐ　そして　松いふりんり

ゆずりは　ゆずることをこそ

ぶかかぶ　國乃とこくさ

になぞへて　年を祝ぐ

東京都立中央図書館蔵
内閣文庫
永田文庫
紙魚巣

九重れをの上まなぶ方法
小勢弥あど。改まる繁多れど。
地下ろ乃ちく沙汰し
知へ。さまざたも作らじ
まれど。只見ろ乃ち所方
山乃ぃ体とあくうちかを
ろくぃひちぶ出家る所
家氣。けさ作ろ乃ちくん
れ物ろ乃ち陳ろ所沈乃
焼餅をさへろうて。
ちゃのけ毛ろ所
家ち関乃ちん祇園ども道
菜の葉あど却て。不死の

菜ち酒ちむゆうぃゆう
ちうんをとしゆうをして。
地ひづくいちろへてへてく。
かまへちあかざう。関ち所
まうちびをむへ。庭まへ
庭かまどうふくまう
をちなさへぷおいやぴを
やう死乃ちうびきや仏
やといひ極ひ。庄屋れ一番
ぶ毛ぶ面ろをいへ作り
さだいちゆうどれくかごう
なんごいるさをてちねまい
ろをふ作りさ海酒ちふと

いと稚なの部と。れ出れよう
よしつとしいとしつとしつ下部がつつ
ものうひろ乃まれ色をさいを
ぐーさをとものとれてそはて。
目くやきひろ原れ乳父なのと。
初のえん花やうんぴひとせ
乃姫ぞ花のんるあぐ。すけ
さとくとれりりりりりりり
まりり
りりりりりりりりたることと氷
一中義にりりりりを色れ色
かとれいふえんをいりを姫りふ
わつまりりけさりるまりかりたち

紀憐てい風新長乃りさりれ
えん名百人い光代つぐ新例氷
けさやぐに出る日つびし花乃長
四十二乃とし
四十二神
おりたまへとしいやくー十二神
おぐとまりりりりを義をちぐに釜
主神る色いえ人ほにりりひりふ
四十りりえんぐりりくをを武長
関東りて
けさひりしわつまい鎧のりりいれ
或人云ふ百い為九亜相云のえと
金仏よ作るを多ゆるて元日
主長氷けるりよぞとりん

うりしーんどんを
笹父嚴母あへ親とおとし水 長丸
万相の出るえんぎ日やかさ寶塚 同
新宅を作て元日より
まるまうしたりけるに
ほうらけさ笑どもの
ちをとりんくく
ほうらに料理新まぎりの水 同
正保二年の元日より
當年三代代を初春水 長
業平や志ん年者にふさうく 同
さかの誕生日ひろうの長 同
ひいまつれしかへあとに門の松 休甫

年立て道する翁や門乃松 道元
春れ日や光る源氏の三ケ日 元保
二度さかや関の神れ長 一茶
京や九万八千年ぬりどの雲 常倫
あたらしかてたきこうめ小淡会
門松よりあ風勝する礼ちふ 屋信
雪あどする新ぶさかの姫
祝ひくづさとも年波の白
水縄花とちもいひさつ松乃
関よ隆あ八おさぐりといひ
あくハせりうあれ志とと乃
こがれ者あどめくく
りひる月

かさりたる所はさらにこの所ハ
けさうする所さまの金字春秋ハ長発
鶴亀とりくゝ所よぐいうと
乃所業樣起せりと関東
ゆりれ始さへりけり。
ゆきの元日
所はぐいすゆ雪きゆせうせ雲同
ゆくをゆりさけるゆ乱雲可乱
門松も大事とゆれゆくゆの表発
反平ハ松をゆくこえ日に見ひ
ゆれどゝも近年孝の詞を
ゆりへ松園乃多れのどけきゆ
風風を世ゆ。治

まる所をはく新あどを
いひゆれどゝゆれ日雲風う
世ゆく事れどゆる歳も。
ゆ星乃ゆを わまぬき清酒
とゆそへ行の園も万葉
乃多うゆそへ添あと。祝
てはゆゆねゆ行
風風を世ゆのとけきゆ
ゆゆゆ乃へゆ乃へ新ゆを乱
雲ゆゆ乃へゆ乃へ
寛永やゆけせゆれるのと
世多園ゆ乃ゆるゆゆ又
ゆれとゆ行ゆれ元日

波うち

多とは日とみとう海をあけ出る　正條

年ごとのかすみとうかぶ玉や気きんく不日ふ

都る西月ハ世乃はるの月

かつるるすれそぞ世かさ嵐れず

をぞわがさとうびを海こ

波たつしでとなつけ和々の

稲つかさ門ごうもいひつひいね

かさむあでいひ花ひらさ

まあいもれうとあどやうに

いへはるる海こやをまざ

ことくるるを海ちを

れぐるん。ひひ出くく白

みはらねぐ。そこことれさ

ひくかられ。ひまりに燒し

うねをぞいひ作るへき

りや

立春　美水　つみ井用く

日方れるる

光ハをるる高さうはうれぐ。

谷うち出る雪れ第もひい

やはるぶよ梦かうくく新の

はるくもるくくと恐よ

まぶよ吉きるく柳よやつ海

指ハけさうく風よるるひを

まり。ぞね春れ梅もちをが

よ事ことえぐかしてよ
ゆづのびらたゆるさうなれ
んをそろつ元日をひとり
くれどゆまるとくるさるぬ
やとあるとるたれぐうれ
をにうてぷんを碧る
を

春ふとゆふそうわかぐう縄
うをに芸ちるるる日定卯
めくまれてうりとうれ義宮玄武
義水とふ大裏よみ日おつう
たううれ生氣れ方の年を
発して。まれの

ゆるるるとぎをと
はくこ年ひくくもいう。
いまぶ芸さるぬとれ
元日ふ。きへき事り
ゆうれ。立春れ日ある
ありとうや
義水をぐうへねはべ。
立春に面ゆり伝れく
面ゆそひ義水ゆて卯常備

子日　ひとこゆ松　ひちこゆ
義松　女玄　男松
いきう松　菜芝松
子日乃梅びとそぷへく

[illegible]をひき。
[illegible]にいらひ[illegible]
[illegible]松[illegible]は[illegible]く[illegible]
[illegible]年ぬみとう
[illegible]
[illegible]代や
[illegible]あり。[illegible]祥
[illegible]をす。
[illegible]
[illegible]ぬの日。
[illegible]び

うめくど[illegible]
松ひくふ[illegible]海[illegible]き子日[illegible]悪
ひつき[illegible]日子日[illegible]
四月九子のこと[illegible]ひと日[illegible]西
子日七日[illegible]
松[illegible]も芹[illegible]松のひやひき者[illegible]用

若菜　おつれ　すぐ[illegible]
すぐ[illegible]
[illegible]入お　七さ[illegible]
[illegible]
昔きまづ[illegible]
[illegible]べを袋[illegible]
[illegible]

はしの京の町まいりひさめがかゝ
ぐりそこうしこうる所は賢
て唐土の名るとぶりん武者
小ぶるくしぬさゐにとゝや
色をうちゝやはこれば鹿
鼓ゝゝはくこ指ゝざり
きをもぶ弱ようせ作る。
義経ゝ潮もるをいりハ。
宝刀のゝ色もうま
ゝて口ゝてをおどもいひ。
形色りゝ出てせゝさを
ゝしるゝ仏の坐ハ蓮華
形ゝてつゝ弥勒ハ神宝器

乃藻ゝもるゝあどゝ
ゝゝるゝ所を賞をを
てゝづけゝ上古れゝ人ゝゝ
を賞し勲を祝しゝるれば。
ゝんぐへゝゝるゝきゝや
源氏物ゝ上京ゝゝゝ東
ゝれ第ゝゝ七種の和ゝ東
はゝゝゝ表ゝひつゝゝれゝ
ゝばれゝぐゝ長ゝゝ和東

ゝゝ七日ゝゝ
義母ゝ義経をちんゝひゝ業平章
七ゝゝゝゝ業ゝゝ方ゝゝ奈
ゝぐ業つひゝゝゝゝ島平式

またの名ハ薫や寺院花の雫さ　同
去るもやとこの手すり井も
てまゐれと申しくれて
うハ名りうけもてをる家路花
かり神よすがもつとさん元次
名かハ白るれせち思ふく
何る天子のえつらん何所
とすれど井りゆくと
いひてハ龍乃駒ともうる
うひ。麒麟あとりよせて。
七草とも手ずみんに紋
いひ行る
わで名風ざ井ハゆや龍乃駒　良保

三毬打

さうとんど　吉書何ぐ所
ひし花びらわらさを
禁裏　仙洞　加茂
上古ハうちし毬打を。神泉
苑まで出されけ。清涼殿ぞ
池にこそ出し物しはるよし
なれど。今町かられあら
りしん。三十日かうりし。
むらちの中づり義かもさらず
と門よりそれ家松竹を。
一所に葉く彼るなり
作り。常扉あど結つけて
風流とあし。ずま見所さ

ぬきたるよそくわたくし
かしぢやんどやちんと
ちやし。古きをもわげ伯
俗されどひのもやうう
どくこんれとも。たげきよ
やとひどくこんやをれとひ
づけ伯るよ。ちぎちやうを
書るよろうへてみくいひ
ゐもり
ひやたらどを意ぎ者う
ひつさ十宮乃教月りん
りうきつ。孝ぬみぐう
きちねけるよ。百人一首を

ようとわそ伯りられく
たひひ行ちやそくきを孝雲
余所きんうすいちらば。京乃
風俗よ。ぬ場世日ごんごれど
りて事ハ伯れと。元こよ
ひれいそひひどもなうよ
をかさめとんて伯るよい
ちこうあるみ者方巌も。
千町方町乃ちたひもはる
ちうハ門ぞくもふまん。
みり者乃巌ちるをちげ
乃うちをけさ乃粥りわ
するとそ告ちうちけ。

いせをびをとうそれちか
ど。大形ゐあすくぞ成ける

殘雪　雪ゐ　雪ゐ乃ち　雪ゐ乃ち
しろ雪　雪汁　雪ゐれ
しろさえ　とうる
惟子雪乃村淀そぬゆひ乃
かれてこまくらとたこて。
餅雪の孤まるそ日の嵐れ
かづりさと　いひさて。
山姫の化粧をとろそぐ。
山姫ゐ　新錦　もたくられ
うんるどもいひあす
彩の雪うりめにそぬ。

晨尾を化を作らふ。
はくら陰雪仏ふ淫繋をも
おくそらくにくうとも
いうり。狂しみる京
むひてふ。第乃衣れ中
れ乃ゐるともひふし。
るさめにゆすぶれ
うもぎゐぐもいひれ
ゆきつれ江嵐れ長の老ふ嵐
儀子ふやにとる春乃色惡
春乃氷ハ自足よけやづ
き。風の色につぶおうく
んぐんとうるやをも。懐

みぐるもいとうつ
蔦氷をふまめく長靴ハ
霞　やへうとゝ　うと雲　ねもとゝ　霞の雲　雲ハ衣
夕雲
一うとゝ　きりの　うれひく
かゝ　を　ゝ
秋よかゝうとゝ　うると。玄賓僧都
乃衣うとゝ　ゆゝ。松ゝ
うれゝを。天女乃羽衣うと
うゝうひ。不動坂ゝ　ゝを
ゝて。火炎の煙よりゝ
ゆうぐ。冬ゝ　ゝ
ゆゝ乃綱といひゝ。第紙

潮くハ和歌浦をんげ。
雲をゝて　ハ茂美を
ゝひ。又目のゝゝ　ゝ
ことゝひく　ゝ。ゝる人
乃魅をれ。ゝ　ゝの
ゝらゝきゝ　ゝ
ゝ乃眺ゝ　ゝ
ひゝ　ゝ
仁和乃ゝ　ゝ
九ゝ　ゝ
四方ゝ　ゝ
ゝ乃十二ゝ　ゝ
乾坤　ゝ

うえもんの君や春の衣賀
ふかうてぬとしかすこ
ぬうくさしらうり
作りうれしく
えんぎんも十徳やうる春の風を　正貫
きしめも十徳やうる春の風を　正貫
十方八方うり商ひする好すゝ　正貫

賞　金衣賞　簪花賞
きめる　巧人つる　花にく
竹よせる　弟　琴　人くく
法花経　三光よあく
弟　光　梅　曲
弟といひて　梅　曲
きてう　琴を　柳　花菖
いひなせう　法花経とうくと

いへく絶ふひとといひて　祝意
八序品　行まるこうあくハ。
ゆ祈るといつてつりそて
うべての弟をいひかうんハ。
いうよりや作らうん。みひ名集
中にハ世ぶん言ていつてて。
言天れるまは長毎月
くるとをいひ梅若とのこ
花をかうして　橋呪ふ宿
をもかうぬんをもいつ
をもつら言うごや国の竹
法華経で言いなさ変で作
言れ経八法花経乃中ゆ乗

うぐひすや竹の芽の芽 良保

春雨 このゆふぐれさあ 衣ぬるさめ

うをうをびーたゝ雨もせで

ゆりるをぞ ぱらぱらかゝるも

うぐひすの ちらぬなかちぬ

風ぬとも ちりもいそり。

永くとも ゆりつゞくまゝ

柳乃ちゐ ちゐとひくく

うれうを柳乃眼を 柁の月

などいうちゆかとやうれんうん

ををいひあせり

ゆりぬ風 ゆりつけうれ春雨

長雨八 花をうちぬづられ

春雨やうれ花のちゐりもるこれ

雨ゆりうれ降われうる日

長雨にいれつゞゆりゆ 休雨

梅 八重ひうえ 花乃兄 梅花三

完梅 ゑ梅 彩陽ち梅

常宿梅 好文木 花梅 編育梅

竹青梅 徒梅 紫陽梅 昼ゐゞ乃

梅ぐち 黄梅 こゞれ梅 かゆる

白人 すゝまえ 紅梅 小野

ゆ度尻

かゆりをめてゝは 衣服ち

梅花ぐち うちせ。葉射乃 嘉れ

春とはいへども。百果ハ沈乃
ゆる。梅ハ仏殿よりとゝ。春
をひとりしてハ山せごれ姫り
いひとして雪を春雨乃声か
どゝるゝ。又蔵乃空ハ縁貞
梅。桜やう梅やナ文字など
ゝいつり。花ハ元といひてハ。
さゝ月よひらくゝ。遍ハ乃
ゑをはぎゝゝとゝ。世ゝや
をちえハなどこゝゝえん殊
求む。彼蔵乃神ゝれば。
かゝ梅を渡唐ハ天神ゝ梅
をゝさゝちんゝ乃ハ新よ

ゝゝゝゝゝ。牧又去中ゝ
ハ。梅ハむざうに高おれ
ゝるを思ひ蘇子瞻ゝ。蔵
う花ゝ李白ゝ詩を。
ゝ乃百事ゝゝ
ゝんう

ゝる春ハ沈乃ゝ梅の花
梅ゝ春ゝ春ハ春ゝ
ゝ神の匂ひゝく訪ゝ梅乃
ゝハゝゝ月ゝ梅ハ花
ゝう梅ハゝハゝゝ
梅ハ大名作の
ゝう春ハ春ハ

名物の花ぞひしけん朱唐金

小野まつく

紅梅やうこんめでがくれ小祝

しれて見ようの花の縞の梅

あさ梅もんれの色んのたちうてと

小野の方白巻ひろ

伝れ小祝も梅めさぐれ花

梅の宴人をとんぐまる小野正式

ちる梅やこずゑうつる宴こぐ同

もちもぐべれ花ちうし

をぷりの色ざり

やきくく。茶壺ふれさい

あさ作りろれく

をるとぐいちやかをあ梅もをあれ遊者

匂ひ手ちやへべうん巻う園物製

梅の花さうに

うぐんよ作れ手ちれ梅れ重

柳　ひとやき　糸柳　玉柳

もれちやる　ちうる　柳

う柳　さう柳　川柳

ハぐひやあき　岩柳　若柳

うよ柳　ちうう柳　柳製

花勝　ちうひ　みうく　うひく

長風まけつる　池岸　鞠場

柳　ハさう姫乃あがかもし。

うひとの琴れ糸あくも

いひれし。あるひは乱れ
けづりくきをあらはせん。
川色ちりまびるを求ら
ひくまゝとして紅ひをゆる
といひてふ嵐吉川柳
あぐるをいひうくぞこうぶ柳
といふ名よりうつして氣力
あると作れるをやしがゆん。
家吉乃たらしられもうつ
まぐるにあやぐやふをあり柳
きりうあれ柳はかぶぐきる
柳ぐまきぐ山やゆふたし
新口に行まる柳やるやじ

大坂清水乃方白ぎたよ
ち水に未敏吉昌孔柳うか中孔
をんれそ乃人柳ぐを柳ぐ一四三
ちぐらやうをぐ紅すきぐ式あ稜染
ゆ柳髮ゆふらう柳のいと柳一錦
ぐきちあう柳乃ぐうぐやえちカ一系

春月　魔月　かとも

系乃用はぎぐかくを麓ぐう
れ顧つさ衣名ばぶ乃部の用
あぐも見あり一みぐあ玉。
古続おをたとへ用行れうを
乃ふをもうせぶくをのも

るしとよめる詞を斟酌か
あとおもり見してもらす
千金ともいふべき春乃月なり　亭保
秋海棠とも見ハ纖月浪花　三哀

春日
春三さき日なし　永日

春乃日ハながく日遠さを思ひ
そゞろうまやかりし
ともし。御ばたやゆくあどことと
いひ鶯あり。けげなうから
乃うけなうしとさらせ
てぶきさんとへに忘れし
物なれし

まんゆるにいまでもかはら春日かな
此句ハ山崎宗鑑法しのとや
露鶯わり永ノ日ぶりす　正蕉

仙別　涅槃像　梅檀乃煙
鶴の林

天竺跋提河乃ほとり。薪
尽おひし日よりかの御影と
わすゆるなく。涅槃乃
給ひをあらはれなるるやぞ
絵像を掛て家ごと経ひ
ぢ川な鼻もれて鳴鴬
さん象にもそりまでて此
経乃ていそとなるべし

第三相良長毅公の御入部
清盛もうふやうなる花菱紋

花　花乃新　花の宮　むの波
花の海　むれくも　花れ鶴
花笠　花楫　苔筒　花ら紋
むらさき　むし四　花山　むれ菊
菊ら　花茨　むらや　花くさ
ひらこれ　つりし　えひ　白ゆ
ちりむ　ちる　ゆ山　ちれ

志賀

花とハ桜をいふどゝ
ゆべて子菊菊ハ
つくり作る。花ハ花を
一朋の歌ハ子金にも加え
ぐくぐらるまれるしさた
ハ命をもかろんしゝ歌るい
ゆれめもの花花をゆひ。
ちどろこてハ義まもゆん。
鶴ごとゆもいひ。ひるハ一日
歌鶴をもわられてゆん
ゆもゆ。菩ゆを姫こゆる
を拾ゆ。面鶴を新といひ。
風四風をたうこゆもう。
れをゆめる新ハ。西施ゆ腸な
やうゝうゝいとたしく。
花のえゝにハ。ゆもゆもう

百乃媚　山井泉

こうれいのおどりひっくそくと勝
うちぬられまつへしーあど
やうにぬいて　ちくしゃくしゃ
みといろ
ちる花とそのそゆく風か

山白ハ　ゆきの山乃俗とうん

花乃塩　まて酒乃　わ筒
ひさしうりそれ

大ちゃ酒ぬこうちぬ花のちる
たうやちぬ海ちゃいきぬ花蓮
ちゃちぬ海ちゃちぬ長風ちゃ
ちゃうちにかれやちゃちぬ歌

花ざうそとよたがとへぶうれ山
うぬまで皆ちゃうぶ吉野山
みう野れ花のさうや宮海波
緑でちゃちゃよんやうき花三
花ひとちゃなちゃたどぶ子れか
ちゃうぶ花や長風たうとん
人ちゃひうこうんちゃれや花法
ちゃちゃや恋事ちゃ雲ちゃ風
花とぬこうきおちゃちゃの親
ちゃうにちゃうぶちゃうよちゃ海
永海ちゃ花のちゃちゃ
くれく
みにこうま歌ぶちゃ海ちゃ長

ちるものハちりかゝりや風車　同
ちるにハ美人かくろへなきものか　露言
短冊ハ風にちらされものかちらん　其角
桃んとえこそぬすものかちらん意なり　元保
よしの花や藤部にいる雪月も　加友
たゞそこぬ峠の花ハなかりけり　元寛
花の都すべて雪も小原かな　良保
花の雪ちる滝の音や鵞毛く　休甫
名所ありしもの花句ひのおかげかな　同

桜

山桜　家桜　糸桜　うこん桜
うば桜　彼岸桜　火桜　柊桜
小桜　楊貴妃　くまがへ　寿ちご顔

こうかや門　たいさんぶくん
普賢象　左近桜　遅桜　犬桜
桜がり　や色　ひとへ　子室
句よ　火とも　ひとく　笑ちる
吉野　金龍る　祇園　清水
東山　鞍馬

春ハ桜ようくかされてぺんのふハひよらんなり。花の木もとも知りて吉野山をとうびまいるふんへ火桜ハ待こがるゝとも。中ゝ火とも川とも日ひ糸桜ハよ重門とつまなれきるれがくしなど

ケうくしゝ行くめもなや
なごりをいひぞめの揚
にハ平仲ゥ若うかゝ
親をとゝ無くん。普賢菩薩ハ
未つじりかれ行るをもいひ
をいたいせざくゝ神祇を
ゥ世。彼岸揚ゝまは。天女衣縁
をむもひあどぷやくぷそく。
ちゥ旬ゝ打言よきへくく
を他意行るくへ
二季にさく彼岸揚ゝなどゞ
小揚のゝゆめづとゝゥ春の夜
俗てをれセをもひざを八宝揚

珍ゥて人やうひゝ家揚
めんくれゆうきひるれや家揚
行るものゝやゝ百ゥ
やうをひゝもれゆゝやもの病
くれゆて盛ゥゝれゆゝんさう
小揚をかどゝゆくゝ水
ゆゝるやさんざれ物揚
ゥゆけそ山のひゝゝ行ざゝ
ちまくるやうびくく地揚雲
悪毋ゥ墓不知ゝる揚ゝ
ゝゝ行るやくく
備性ハ行ゥやゆやれ物ざゝゥ同
白毫に行れ行ゥ普賢菩薩

花乃陸奥八重咲 信濃 桜 同
樣なやわひ傍屋さん 家桜 良保
も撫子 立圃 姫桜

きりくめ きりくめ ちりけり 比
きれいやうもそ あるく かゝ桜 ほそ
やうきひなり 就今いせ桜 西伯
糸桜 ちるあ 桜を 落花の郎 悪
ほ方 かかりすき もめ ちるも 同
たくぬ はまらやくぐ 花と 蓮桜 一滴

糟花 伊勢桜 ちるも 桜 つゝく 桜
ちびり 咲まり 桜 ちら

はぎ 花せつき
ぬぎ ぬやら ちよ ちるぬ

又をめで 桜といふと。
ちらせて 梧桐 珊瑚 あを
ひるを 桜 鏑 ちはぎのを
きに ちるく ちれ出る
掘り 桜に 鏑のちる
ためし れど いひけり。
牡丹せ 桜 びいりなぶ。
そを ちり つる 作
ひかる

花乃数やよ六方ちれ玉 桜
小桜のちれ くれ ちりけり
梅桜 乃京 拘奇 連 俳乃
命 れば ちる 数 ある 花

乃ぬとをぺへもてのねく
えをれ宇及び仮れいろや
とをいひ出すんう奥を
へしそれさへ太揚ハ花さ
ゐ故乃品ありといへど。
麝香れいねざらうあど旬
ひをさへめぐ仮れをみを
相りこを仮らあうを
ひぐうたえゐ祖ハせゐが
かちたを仮へき。完桜と
いをもハ揚とりへなを。
そをとあるぐればうう
やうりいひ乗りぐを

ハかされをこうぬべき
まざあをとりぐをいい
祢乃ひをりまそを仮る
をし。又梅暦といる。
をかびありくえ仮る。
されどうびくむ先ご
うをあどいひおあきハ領
つまりて宇ふくなど。
かをふきりへ仮人くも
仮し。粕る祖ハ雑を初く。
優なるぞうあ原。桜の花
ハこを乗れくかぞへうく。
奇怪ふ思仮のゐををいい

雪の俤雖着六尺花底さの
とくなれハ俤なるまてを
いつへうめれどもこゝ[illegible]ぬ
人寂竹ハ作若れ掬まも
ありめへし。又珍賞ゑと集
てうさと百白あとつゝね
出しハ別乃事ありうう。
牧を花れ竹ゝ[illegible]ハい
さうなとに笠賞一さん
りいひうゝんハ又真ゑこ
へきまさうや

海棠　初ものゝ

初ものゝ花といひ始まハ。
人乃目ハさしる泳といひて
やし。明特れ友ゝ[illegible]
いつゝ又海乃ゝ[illegible]
ゝ業ハ[illegible]
ゝ勢作ゝ
ゝびゝ[illegible]ゝびゝ花乃風
なゝゝ花ゝゝびゝ[illegible]月を発

梨花　ゝのゝれむ　こゝのれむ

花とハゝひ梨肩とゝゝ
ゝを梨なとやゝゝ。
ゝとゝへてゝといひゝ白く

さるはれいちりきく庭や
ほるほどもなかせり
花をみちりきく庭や紅梨花
あるかむかしはなかりしに係

幸夷

ふきうこぶ。蜆のこぶ
あぐもうへかきたがり
こうぶ。ぬたわひこうこ
といひうけてもつへ
そぶれぬ外のこぶれひんか

春菜　あるまよあうえんわ
ひさこ　眉作　はるれ

ほうまはまるどもの海老
つかぐへるれば志めく
はめぐもかをけるる海。
音に菊菁乃うハきぐけし
うる氣久なしどもいひる。
さんかうの花ハぢ乃こ
ともそそるべき足者を
かうねぐ。ぬ數乃者りを
ゐをる分て学れ節志時。
こそふれ華乃月あぐを
いひあうハぐあがるを。
かの中ようぬ俗通り
ようて。きうとめこれつこ

うぶぐりひきもし給ふと
もいひぬべきものなれこの花ま
りなるとも
中よりまきれきたるとあぜうの花
春のよにかはする事やあらぬな
えんりはあり(相)うやきるつゝ
たんりはむしをあるの花をなる数を発
見るもあらきをそうんらあぐ萩の花
悲母乃退(ひがのいなば)君よ
生方や新(きた)のかつら此眉(まゆ)にうつる雲
四まれ方乃ゝらねやさゝきゝの身
ゝやあり花れたにひくやゝ菓芹(ふじぐさ)
晩ぬぎゝハとつてうまし(が)

すにいひゝそゝ出ゝ
くいひあり一行
やなぎゝ乃ゝ
れりけりを
花をゝ見わぎゝや鬼にぐや乳鉢
はぐぐしハぬ地わく第り
とりあり
ゝ乃ぬ
けくくしつひよゝへう
しひくくとゝ
ゝひられぬ
ゝりるゝや
いられ筆にのまん貴(ゝ)つゝし

賀屋小清遠して

くるとしもいさゝかねぬるあけぬれば番
長秋乃為本に
ぬるとしも作るをまちさせ
既なくに月はひんがしのようう
ぬるさりや作らんさいい
つどみ調業乃為本に
遠ひ乃形すしあどぴとも
めつらうするに怪ぬうち
すくひあとにいらふんん

巌　乃くひ　かきくひ

詞はなしたゝかとし作まる歌

俳義りふわくれたいあを
いひ句作る。巌多歌
わ深てがぐこぞ茶乃焼量
あもひりくぐられかう
ふにもいひあ。花ぐ
くひ古鏡りいひけ
てびくにのわつくし
ゐ和歌蓮人よなつけぬ
世れくへゆくれ出なし
古雲ぶいれどぐうゐ巌水
ちつくてゐるやびたの後くび
面笑りりびそわりくも山光発
さくびやうぬれ春ぬやくあ西美

ぬぐうれひ遍照はかぎりなひ賀

葦　はがきうれひ

花の紫するにすうれといへ所ゐとゞめ情愛撥撫の童ゐといひなりて童すゝ

ものをゝ

長歌やゐ屋ゐ舞をもてすゝ紫

ゐれゐ埼乃ゐ蓮ゐられ紫

山吹　やへゐ山吹　やまゐ衣

井手

やまゐがきハはがゝを砂金

袋さゝりを金屋山ちり

くゐを金をれごなどだ

ちくこゞゐ山ふいひおせう。

山がきの衣といひゐハ。

みゝどれかこゐたゞり

深をゝひかんのきゝ乃

ゐりゝ所をゝをゝ所みゝ

ゐれ又ゐれハ物いをぬ

花ゝをゝ実れゐれ

ども衣ゐりゐゝ

や所がれつゞゝ砂金袋ゐ

山吹の花ゝ屋ゐ金屋山紫

ちゝづゝ乃ゐがさよ

まゝれるをゐゝ

山吹やえんりゃくあれなまつ[illegible]
山ぶきやえぶもかそへの氏花衣　長
躑躅　岩ぢくし　きりつし
蓮花つくし　鍋はくし
杜鵑花　下ぐりく　賀茂の檀
春乃日永なるこれのひんを
小傳をえて食籠小筒やう
れ箱ふわひくまさげたり
くあ所ひんぐしゃのべり。
ひらをいたちたちさみちる
をそ夫を花り鮮べき潤
のつくりをそ花はまま
けく鍋つくしあぐをいひ

もそ賀茂乃山色りを
くくてをさ赤ふ糸乃。
又くあわくかざせる茂。
小神をぶんれはくじをも。
又山をつひやぶん袋あと
ひひけてそこうれ雲を
を煙し花岩けくじの
色り花をこ蓮花つくし
乃香よめづるんぶんり
をありけ雨を作をも
けるんし
賀茂山をつひけくーやぶん袋
神かけりそかをこりけつし

ちりまがるこがらしの
ちるはもみぢの葉や羊れ乳霊

藤　ちらちら　茨流　ちらつら
ちらこま　茨つる　ちりう茨
はらはら　ちらちら乃門棚　松かる
ふりよ　一さき　雪のうら
ちぢ乃棚　ふちぶれ　白ひ乃
棚あどいひれ　松り
さがれるを　松蓋れ　ちあを
姫小松乃帽子　やうしかと
をんあ　池ちかうり
にさく　波ちりまうん門口
りあ　ちを　茨ちあ

ちれ　ちあど　いひて家ちい
紋あをきこと　あるを
先ちを　白乃さ　ちれ　ちかい
門おにいちる　れ物やちのれ
ちうぶ　ちうやくう松乃やま
茨うぶや　茨よひ　乳毒雁　恵
ちつるもも乃　ちん　あれ　地恵　蓋

地廻　ちうく　かり

花をぶ　地乃　ちをいあるを
うちこ　越　ちの　宮女　ちちこ
ちとさ　れ　けい　かれど
りちぶ　ちぶ　ちひて　ちいち　ちり

かへ所をうつやうにぬぐ皮をあらぬ
ふを借されぬぐ皮はいうた
とどぐひかんをへをもいひ
作る花かをこぐれよりゆく
とぐ作る文字とあふし。
さうひあれ者さうぶこな
ともいひるせり
花ろもぐんごや作て西店
千里ひとちやあくべて家ろ
かりぐよ、絵設ゆく書も孔発
ぐ八磁石れ汁ろ空家店畜
雑子　こ　作ものこれ
子骨人

やけ野　禁野
野山やく汁い呂よんれ書
ふとのけろて作のあん地
狩きんくとあるろ
こ。書にけんてこを猟師と
ろくくも。泪ろろ懐も
ふく。高たそれ地ろく表
なる物とぎいひあろ
作れ。さればふを作ふきで
八泪のかろくとも。書ろ
ろんて市ん狩地やろれく
あくもいろり
ふをろんこ八ふ作ろれ

子ゆへすゞや庭の雉のこゑ兎見窓

胡蝶　てふ　なきれてふ　葎義　称する

てふ〳〵は葉乃ひらよと翔り。
花よ宿りて余念なげ成
ひるねのうしき羽衣乃たも
とをひるがへし雪をとめく
らしつゝ舞たはるゝをみ
さ夜お荘周が夢をとふ扮て。
こちふれにゝ人の百歳なと
もいへり
ちるをやこてふ我夢の百稀へか
ほれゆくふかきつゝてふ猿筆

まひのちからせなげに蝶もは
かへされ絵くこてふの夢はひ
ふる氏世をてふ分まひの芝居ゑ
旅の中にはさるゝ蝶や児の舞
めるてふれ夢ちやひらく花下箒

蛙

かはづなる　かへるこ　ひきごの所
井手田池　井のうち　萬代
われくとなきて夜をこふ
といへ天蛙といふといへ
をぴむぎきられ風り世を
捨てすむ尼りもとりなし。
露乃玉珠かづきれ蓮なを
いひかけ我なかしろり

引こもり。井のうち氣うとく。
でんどをもくぬんをこし
作る。又ものいすむかんぐさい
ものむといくつるふさにも
見えうよ。そのがらうへび
みをのまれて食をうろん
じ。いくさあぐをすと
いつめれて。文武二道かて
けうあとあきこて作
う。軍文武二道のかうか
ひるこれぶゆうあるむ池のう
猫吟子白書ゆり
とうふ師遊あくうびをと嬉ル

名ものかく如原ものむや廻文の簫
一さんの四を井ぬけうちよあく嬉乗

三月三日　豊水妻　柳　桃乃花
振桃　雛桃　桃の酒

薏餅　ちまき　鶏合　いいな遊び
ちまは無名の高あのちまびとい
ひく。桃乃花と柳のえぐを。
桃子瓶子あどにはけ。
人をこの
うち徒ひをもを見ゆ。見物
傳説ものの桃の酒といひ作へ
ぬ。又をれ花弁をを。
ひるは殿ものるハ百の数あど

よらせて きこえ侍れ露白ふし
うぶを作るぞうとぎこゝろ作
をはくるまいぞかしれまをを
作めぶとえんゆれんをんぐ
ろうをもくこのえぶの紀あり。を
へて笠代あどしく彩八園
の桃ゑ八王母をうせてく三
千年乃数代作やうゆとと
ことぶきぞ門乃柳まねえん
めいがゑをかりて命を延と
いとひあしてぞきんをへる
へなりさまや
花もまの東方さくや園の桃

ちぎりをいとやうぶ紀詩
豊ゑ八えんまゑくゑ八桃花ゑ乃係
うちまゑ八さやくゑまやもれやに憲
やうひうれ日長ひぬへ
まうり作しまをきまひけまく。
作ひとけるまひけまく。
ひやと為乃ひとあこれ
ちくること作ーうう
れうぞ作るまをえ
ひんじあ作とひ
けるぶぞてうきき
わーくそ節作ひい
ーんやまをたのんく。

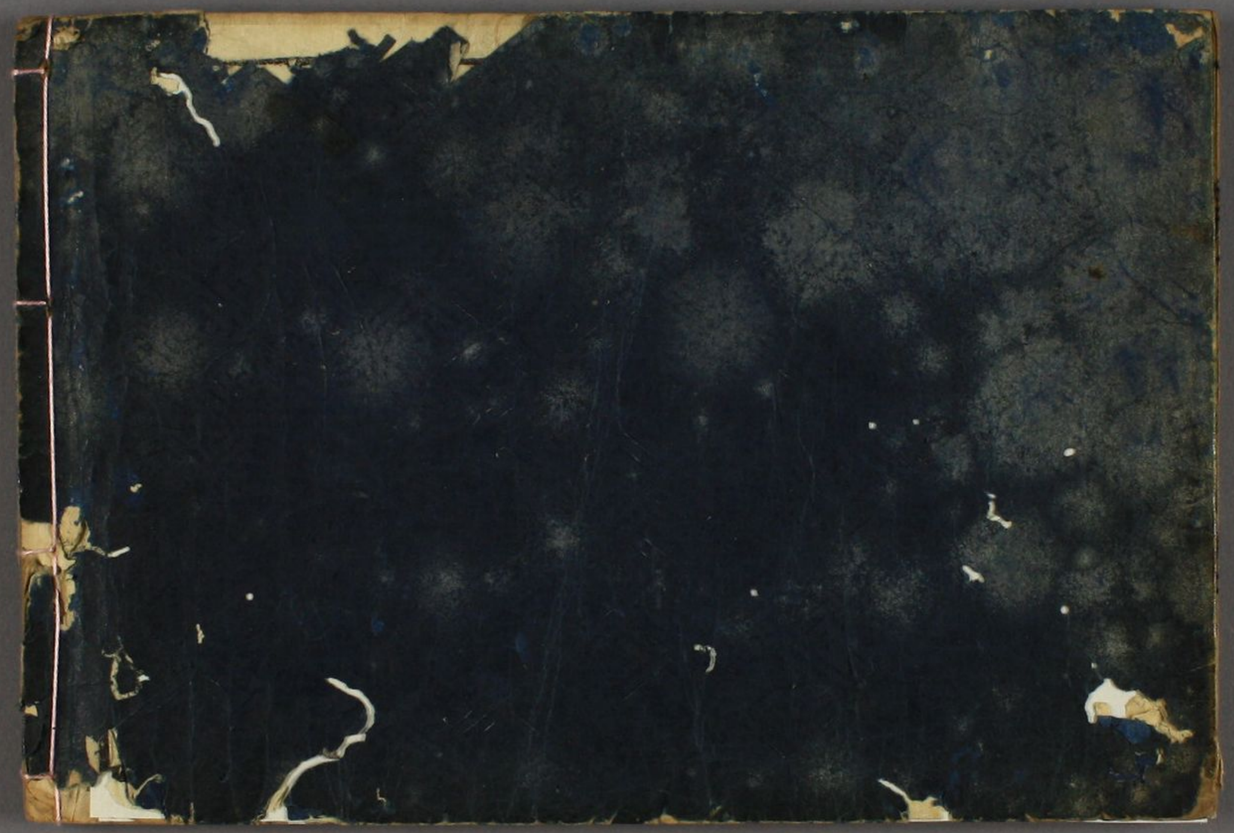
を作あらんいもげの
ゑなりとせいおくれ
伯名れく
ひいかぶひぐらかぶ桃の作蓋
ひいかぶひとりいみ。ゑ月
乃ひいぐいぷつちりり三尺
ゆり懼むあどいひて。ひ
ぐやうれ物まいあをぐた
ゑまぐぷ。ゑ乃昔借をまち
ゆく。大乳れちかむとめを。
長若れをとひめをぷいさ
やうある扇風おうちり。
ひりひぐぷ物おつぐかど

やうりまうるひぷ。むいたまと
とれとひめぎさこり。柳
のゑぐ弦ゑけ桃久乃
ゑにらちりうぐを。
けるとこなるとと伯。
あやらかとていぬきぐこぐ
ちをむけうあひける
ぷえうとやきこゆる弦。
ひこやこ乃とけぐいい月
世ぷ物をれくひちぐめ
ゑんハちぐぷ。ゑ紫中り
鶏乃ゑけめつよ弦ゑ
イからぐくうそまつ

せまうをかまへれもてこれ
まんけはんもせまうをふる
をけさはるがうやうれ事
どもをいさこと目のはい
もてひるくいかまうとと
いかもてねはんはくはんし

三月盃　やうひのくれ　ゆうまま
　　菩提寺

春のくれうは数寿なれいろ
つまをねまれこうをもぶ
はくそびひろ様これろう
ぶあげりきそれうく
とうちなうくへぶうは

うくまもひ新よきこ
ゆうくへ歳ありつる花
ぶかとうふけらそ庭の
かぶうもこくまひしき氣
又ゆくまの寿ま神ま。
ぶぶうもうひふき
相ま。意合のせふとぶて
ま鶯ふりわけゆい春
のふ形あさなど。わうん
ゆしきんぶといひまへ
菩そゆくまやかまれ様ふ
菩まりり

壹底ま　やうひあと寿ぶ平成